

# 10.4 トルコ



## 関田のトスワークが回復基調に。 目を見てのコミュニケーションで勝利！

	25 - 15	
日本 3	25 - 20	0 トルコ
	25 - 19	

チュニジアに完勝した余韻に浸る間もなく、翌日は世界ランキング12位、トルコとの一戦だ。

スタメン中4人が2mを超えるトルコと、日本の平均身長差は約13cm。開幕前は、この対戦からシビアになるとの予想だったが、シビアであろうが、絶対に負けられない必勝の試合となった。第1セットは、小野寺のサービスエースで日本が1点先取した後、点の取り合い。サイドアウトが続いていく。抜け出したのは日本。7-7からトルコのセッター、エクシのショートサーブを高橋藍が床に手を伸ばして、床と段ボールの隙間に滑り込ませてレシーブする、いわゆるパンケーキレシーブ。関田がアンダーでトスを上げ、高橋健太郎がスパイク。ブロックにかけて浮いたボールをトルコもうまく処理し、グルメゾールが足の長いスパイクを打つ。誰もいない!と思ったところへ、藍が体を飛ばしてディグ、最後は石川が空きスペースに巧くブッシュして8-7。関田に回ってきたサーブは、トルコの守備を乱し、高くネット際に返ったボールを健太郎がダイレクトで強打。何とか拾ってセッターがアンダーで左サイドに上げるが、トスにならない。押し込んだだけのボールを関田がアタックライン付近で高く上げると、藍が後方から助走、打つと思いきやフェイクセット! 西田が巧くコースを選んでスパイクを決めた。今日、最初のブレイクポイントに場内は大歓声。さらに関田のサーブからラリーは続くが、日本にチャンスボールが返った時には会場中のボルテージが上がる。真ん中では健太郎がクイックに跳ぼうとし、西田と石川が両サイドに開き、藍がバックアタックの助走。関田はどこに上げるのか? この瞬間を目撃するのがバレー観戦の醍醐味であり、相手のブロックが振り回されて関田の選択した攻撃が見事に決まるのを見るのが、龍神NIPPONファンの醍醐味。10-7は、石川が決めた。日本は徐々にトルコを突き放し、最後は西田のスパイクでセットを先取した。

第2セットも日本が主導権を握り、24-10の場面で甲斐がリリーフサーバーに。甲斐の強烈なサーブはリベロを崩し、最後は石川のバックアタックで決めた。

第3セットは一進一退の攻防。第1セット途中で代わったトルコのオボジット、2001年生まれの子供ユズとアウトサイドヒッター、M.ラグンジャには苦しめられたが、開幕2戦と違い危うさは感じなかった。11-12の場面、関田のワンハンド・ジャンプトスを西田が決めた時には、これで負けるわけがないとさえ思えた。あと3戦、応援するしかない。



日本	3 - 0	トルコ
75	得点	54
42	アタック決定本数	31
6	ブロックポイント	5
2	サービスエース	2
25	相手のミスによる得点	16

●スタメン6人の平均身長 日本 191.0cm トルコ:203.0cm



●スターティングメンバー

 ①西田	 ⑩高橋健	 ⑩エクシ	 ⑦ベディルハン
 ⑫高橋藍	 ⑩石川	 ⑪グルメゾール	 ⑨M.ラグンジャ
 ⑫山本(L)	 ⑫小野寺	 ⑫関田	 ⑫マティッチ
		 ⑩A.ラグンジャ	 ⑫ボルカン